

令和元年6月26日現在

機関番号：32635

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02172

研究課題名(和文) ガンダーラ文化圏、および、中央アジア出土仏教写本の研究

研究課題名(英文) A Study of Buddhist Sanskrit Manuscripts from Greater Gandhara and Central Asia

研究代表者

平林 二郎 (HIRABAYASHI, Jiro)

大正大学・総合仏教研究所・研究員

研究者番号：30724421

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトでは主に大英図書館、ロシア科学アカデミー、インド国立公文書館に収蔵されているガンダーラ文化圏、および、中央アジアから出土したサンスクリット仏教写本について研究をおこなった。大英図書館の写本についてはヘルンレ・コレクション、ならびに、スタイン・コレクションの研究を進めた。ロシア科学アカデミーの写本については仏教文献断簡を解読・比定し、陀羅尼経典写本の翻字をおこなった。インド国立公文書館の写本については『アジタセーナ・ヴィヤーカラナ』、ならびに、『般若経』(第二巻)のカラー影印版を出版した。大英図書館・ロシア科学アカデミーの写本については研究叢書の次巻を出版する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

かつて、大英図書館・ロシア科学アカデミー・インド国立公文書館に収蔵されているサンスクリット写本はアクセスが難しく一部の限られた研究者にしか使用されていなかった。それらの写本の一部については影印版が出版されているが、写本の画像はモノクロームであった。本研究では写本のカラー影印版や、写本のローマ字転写テキストなどを研究成果として出版した。これによってモノクロームの画像ではわからない写本の文字の解読が可能となった。この他、本研究の研究成果によって、研究者のみならず、インド仏教に興味を有するものであれば誰でも一次資料の写本にアクセスすることが容易となった。

研究成果の概要(英文)：This research project focused on the study of Buddhist Sanskrit manuscripts from Greater Gandhara and Central Asia preserved mainly at the British Library, the Russian Academy of Sciences and the National Archives of India. Firstly, regarding the British Library's manuscripts, we advanced research on the Hoernle and Stein Collection. Secondly, concerning manuscripts kept at the Russian Academy of Sciences, we deciphered and identified Buddhist Sanskrit fragments and transliterated Dharani manuscripts. Thirdly, we published colour facsimile editions of the manuscripts of the Ajitasenavyakarana and the Prajnaparamita which are preserved at the National Archives of India. The next volumes of The British Library Sanskrit Fragments and The St. Petersburg Sanskrit Fragments will be published in the near future.

研究分野：仏教学

キーワード：仏教学 古文書学 サンスクリット写本 ガンダーラ文化圏 中央アジア プラフミー系文字 書体  
国際情報交換

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

近年、東京大学東洋文化研究所の「南アジア・サンスクリット語写本データベース」(<http://utlsktms.ioc.u-tokyo.ac.jp/>)、大英図書館を中心とする「国際敦煌プロジェクト」(<http://idp.bl.uk/>)、北京大学梵文貝葉経与仏教文献研究所の写本サイト(<http://www.fanfoyan.com/>)など、国内外の研究機関が収蔵するサンスクリット写本の画像データをインターネット上に公開し始めている。

これらのうち、『般若経』や『法華経』など、専門とする研究者が多い経典のサンスクリット写本については詳細が明らかになってきている。

一方、内容の分かり難い写本については、研究が滞っている写本や、手付かずのまま放置されている写本もみられる。

しかし、研究の滞っていた写本から、チベット語訳・漢訳しか現存していなかった経典のサンスクリット原典断簡が発見されており (Seishi Karashima, “A Sanskrit Fragment of the *Sūtrasamuccaya* from Central Asia”, in: *Pāsādikadānam: Festschrift für Bhikkhu Pāsādika*, Marburg 2009, pp. 253–263), その写本断簡は仏教学研究を進める上で重要な資料の1つとなっている。

ガンダーラ文化圏、ならびに、中央アジアから出土したブラーフミー系文字で書写された写本については、研究の滞っている写本が多数存在しており、それらを研究する必要がある。

ブラーフミー系文字で書写されたサンスクリット写本の研究の状況は、写本を収蔵している機関ごとに異なっている。

平山郁夫画伯が収集した写本コレクション、ならびに、ノルウェーのマーティン・スコイエン氏が収集した写本コレクションについては、佛教学の松田和信教授が「アフガニスタンおよびパキスタン出土仏教写本の研究」(基盤研究(B): 23320013)・「パーミヤン渓谷出土写本を中心とする新出仏教写本の研究」(基盤研究(B): 17H02272)をおこなっており、未知の仏教経典を発見するなど、数多くの研究成果を発表している。

大英図書館、ならびに、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所に収蔵されている写本については、クラウス・ヴィレ博士(元ゲッティンゲン大学)と辛嶋静志(研究分担者)が中心となって、*The British Library Sanskrit Fragments, Volume I–III* (<http://iriab.soka.ac.jp/publication/blsf/>)、ならびに、*The St. Petersburg Sanskrit Fragments, Volume I* (<http://iriab.soka.ac.jp/publication/stpsf.html>)などを出版している。

また、インド国立公文書館に収蔵されているパキスタンのギルギットから発見されたサンスクリット写本については、インド国立公文書館・国際仏教学高等研究所から全写本のカラー影印版が出版されつつある (<http://iriab.soka.ac.jp/publication/>)。

### 2. 研究の目的

本研究では以下の4点を主な研究目的とした。

- (1) 大英図書館に収蔵されているブラーフミー系文字写本の解読・比定
- (2) ロシア科学アカデミーに収蔵されているブラーフミー系文字写本の解読・比定
- (3) インド国立公文書館に収蔵されているギルギット写本の研究・出版
- (4) ブラーフミー系文字写本を用いた研究、ならびに、上記以外のブラーフミー系文字写本の解読・比定

### 3. 研究の方法

本研究では国際仏教学高等研究所の協力を得て、大英図書館・ロシア科学アカデミー・インド国立公文書館に収蔵されているブラーフミー系文字写本の画像データを入手し、それらを用いて研究をおこなった。

- (1) 大英図書館に収蔵されているブラーフミー系文字写本の解読・比定

大英図書館に収蔵されている写本については、イギリスのインド学者であるアウグスト・フリードリヒ・ルドルフ・ヘルンレ、ならびに、マーク・オーレル・スタインのコレクションを中心に研究を進めた。

具体的には、研究代表者・研究分担者・研究協力者・これらの写本に興味のある大学院生などで集まり研究会を開催し、ヘルンレ・コレクション Or. 15011 などの写本断簡のローマ字化をおこない、内容を解読した。

また、陀羅尼経典である『アールヤ・マーニバドラ・ナーマ・ダーラニー』(Or. 6403)についても、ローマ字化をおこない、内容を解読した。

- (2) ロシア科学アカデミーに収蔵されているブラーフミー系文字写本の解読・比定

上記、『アールヤ・マーニバドラ・ナーマ・ダーラニー』(Or. 6403)の解読を開始する際に、ロシア科学アカデミーにパラレルとなる写本が存在しているとわかり、ロシア科学アカデミーの協力のもと SI 2036 写本のローマ字化をおこない、Or. 6403 と並行して内容を解読した。

また、その他の写本としては、未比定の仏教経典写本断簡、ならびに、未比定のアヴァダーナ写本断簡のローマ字化をおこない、内容を解読した。

(3) インド国立公文書館に収蔵されているブラーフミー系文字写本の研究・出版

インド国立公文書館に収蔵されている写本については、インド国立公文書館と国際仏教学高等研究所が共同で全サンスクリット写本のカラー影印版を出版するプロジェクトをおこなっている。

研究代表者（平林二郎）は、このプロジェクトの一環として『アジタセーナ・ヴィヤーカラナ』の写本を解読し、整理した。

研究分担者（辛嶋静志）と研究協力者（玉井達士）は、このプロジェクトの一環として『般若経』写本の解読し、整理した。

(4) ブラーフミー系文字写本を用いた研究、ならびに、上記以外のブラーフミー系文字写本の解読・比定

ブラーフミー系文字写本の書体研究としてはローレ・ザンダー博士（元ベルリン・インド美術館学芸員）の研究（Lore Sander, *Paläographisches zu den Sanskrithandschriften der Berliner Turfansammlung*, Wiesbaden, 1968）など、先行研究が限られている。

そこで本研究では（1）大英図書館・（2）ロシア科学アカデミー・（3）インド国立公文書館、および、それ以外に入手した写本の画像データを用いて、先行研究のおこなわれていないブラーフミー系文字の書体の研究をおこなった。

また、Tatsushi TAMAI (ed.), *Sanskrit, Gāndhārī and Bactrian Manuscript in the Hirayama Collection : Facsimile Edition* (The International Research Institute for Advanced Buddhism at Soka University, Tokyo 2016) で出版されたブラーフミー系文字写本については、この本の編集者である玉井達士（本研究の研究協力者）とともに写本をローマ字化し、解読をおこなった。

この他、ブラーフミー系文字写本をローマ字化したデータや、解読した内容をもとに、研究代表者・研究分担者が各自に学会発表をおこない、論文を出版した。

#### 4. 研究成果

(1) 大英図書館に収蔵されているブラーフミー系文字写本の解読・比定

研究会でローマ字化をおこない、内容を解読したヘルンレ・コレクション (Or. 15011) などの写本断簡、ならびに、陀羅尼経典『アールヤ・マーニバドラ・ナーマ・ダーラニー』 (Or. 6403) については、*The British Library Sanskrit Fragments* の次巻で出版を目指している。

また本研究の一環として、大英図書館のキュレーターであるウルスラ・シムス＝ウィリアム博士のもとを訪ね、大英図書館に収蔵されている写本の最新の研究情報、ならびに、イギリス各地に収蔵されているブラーフミー系文字写本の情報を得た。この情報を活かし、イギリス各地に収蔵されている写本についても研究をおこなう計画を立てている。

(2) ロシア科学アカデミーに収蔵されているブラーフミー系文字写本の解読・比定

ロシア科学アカデミーに収蔵されている本研究で比定した仏教経典写本断簡（『法華経』・『サマーディラージャストラ』など）については、*The St. Petersburg Sanskrit Fragments* の次巻でローマ字化した内容の出版を目指している。

また、『アールヤ・マーニバドラ・ナーマ・ダーラニー』の写本、未比定のアヴァダーナ写本断簡、未比定の仏教文献写本断簡については、写本が劣化しており、文字が掠れて読みにくい部分があるため、さらに詳細に研究を進める必要がある。これらの写本についても研究が完成し次第出版する予定である。

この他、本研究中に、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所のサファラリ・シャマフマドフ博士からロシア科学アカデミーに収蔵されているサンスクリット仏教写本の最新の研究情報を得た。シャマフマドフ博士から得た情報をもとに博士と協力して研究を継続していきたいと考えている。

(3) インド国立公文書館に収蔵されているブラーフミー系文字写本の研究・出版

研究代表者は、インド国立公文書館に収蔵されている『アジタセーナ・ヴィヤーカラナ』のギルギット写本について研究を進め、工藤順之教授（国際仏教学高等研究所）とともに、写本のカラー影印版・コンコードダンスを出版した (*Further Mahāyānasūtras* (5. [図書] ①))。

研究分担者（辛嶋静志）と研究協力者（玉井達士）は、ギルギットから出土した『般若経』をローマ字化して、内容解読し、『二万五千般若経』 (*Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā, I-VIII, ed. Takayasu KIMURA, Sankibō Busshorin, Tokyo 1986-2009*) などと内容の比較研究をおこない、写本のカラー影印版・コンコードダンスを出版した (*Mahāyāna Texts: Prajñāpāramitā Texts* (2) (5. [図書] ⑤))。

(4) ブラーフミー系文字写本を用いた研究、ならびに、上記以外のブラーフミー系文字写本の解読・比定

本研究では（1）大英図書館・（2）ロシア科学アカデミー・（3）インド国立公文書館、および、それ以外に入手した写本の画像データを用いて、先行研究のおこなわれていないブラーフミー系文字の書体の文字表を作成した。しかしながら、これらの文字表については、ページ数が増え紙媒体での出版が困難となってしまったことから、電子媒体などでの公開を考えている。

平山コレクションに含まれるブラーフミー系文字写本については、研究代表者（平林二郎）・研究分担者（辛嶋静志）・研究分担者（長島潤道）・研究協力者（玉井達士）で写本研究をおこない“Sanskrit Fragments in the Hirayama Collection”を論文として発表した（5. [雑誌論文]④）。この他の研究成果については下記5. 主な発表論文等をご覧ください。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 14 件)

- ① Seishi KARASHIMA, Katarzyna Marciniak, “The story of Hastini in the Mahavastu and Fobexingji jing”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 22, 2019, 103-124, 査読有.
- ② Seishi KARASHIMA, Katarzyna Marciniak, “Sabhika-vastu”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 22, 2019, 71-102, 査読有.
- ③ 辛嶋静志, 「アジタと弥勒——大衆部が初期大乘仏典を作ったことのさらなる証拠：兼ねてカナガナハリ大塔の帰属 部派を推定する——」, 『印度学仏教学研究』 67.2, 2018, (56)-(63), 査読有.
- ④ 平林二郎, 「アヴァダーナ文献に見られる経典読誦」, 『印度学仏教学研究』 67.1, 2018, (84)-(89), 査読有.
- ⑤ Seishi KARASHIMA, “Pouched garments (utsanga, yige) and flower balls (puspa-puta) in texts and art”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 21, 2018, 479-488, 査読無.
- ⑥ Seishi KARASHIMA, “A Gandharan stupa as depicted in the Lotus Sutra”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 21, 2018, 471-478, 査読無.
- ⑦ Seishi KARASHIMA, “Stupas described in the Chinese translations of the Vinayas”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 21, 2018, 439-469, 査読無.
- ⑧ Seishi KARASHIMA, “The relationship between Mahasamghikas and Mahayana Buddhism indicated in the colophon of the Chinese translation of the Vinaya of the Mahasamghikas”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 21, 2018, 197-207, 査読無.
- ⑨ Seishi KARASHIMA, “Ajita and Maitreya: More evidence of the early Mahayana scriptures’ origins from the Mahasamghikas and a clue as to the school-affiliation of the Kanaganahalli-stupa”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 21, 2018, 181-196, 査読無.
- ⑩ Seishi KARASHIMA, Katarzyna Marciniak, “The Questions of Nalaka / Nalada in the Mahavastu, Suttanipata and the Fobexingji jing”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 21, 2018, 147-166, 査読無.
- ⑪ Jiro HIRABAYASHI, Seishi KARASHIMA, Jundo NAGASHIMA, Tatsushi TAMAI, “Sanskrit Fragments in the Hirayama Collection”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 21, 2018, 291-298, 査読無.
- ⑫ 平林二郎, 「Mahavastuに見られる読誦経典」, 『印度学仏教学研究』66.2, 2018, (132)-(135), 査読有.
- ⑬ Seishi KARASHIMA, “Some Folios of the Tathagatagunajnanacintyavisayavatara and Dvadasadandakanamastasata-vimalikarana in the Kurita Collection”, International Journal of Buddhist Thought and Culture 27.1, 2017, 11-44, 査読有.
- ⑭ Seishi KARASHIMA, “On Avalokitasvara and Avalokitesvara”, in: Annual Report of The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University 20, 2017, 139-165, 査読無.

[学会発表] (計 12 件)

- ① 辛嶋静志, 「中央アジア出土梵語仏典写本の新研究」, 写本断片接続国際シンポジウム, 2018年12月, 法政大学.
- ② 辛嶋静志, 「三部《雜阿含經》(《大正藏》99、100、101) 原語問題及其所屬部派之考察」, 第十二届漢文仏典語言学國際學術研討会, 2018年11月, 延世大学, ソウル(韓国).
- ③ Seishi KARASHIMA, “The Underlying Languages of the Three Chinese Translations of the Samyukta-agamas, Taisho, nos. 99, 100 and 101, and Their School-Affiliations”, The 4th Seminar of the Agama Research Group: Research on the Samyukta-agama, 2018年10月, Buenos Aires.

- ④ Seishi KARASHIMA, “Further Evidence of the Early Mahayana Scriptures’ Origin from Mahasamghika”, Evolution of Scriptures, Formation of Canons, 2018 年 9 月, 筑波大学.
- ⑤ 辛嶋静志, 「Ajita と Maitreya : 大衆部が初期大乘仏典を作ったことのさらなる証拠 : 兼ねて Kanaganahalli 塔の帰属部派を推定する」, 日本印度学仏教学会第 69 回学術大会, 2018 年 9 月, 東洋大学
- ⑥ 平林二郎, 「アヴァダーナ文献に見られる経典読誦」, 日本印度学仏教学会第 69 回学術大会, 2018 年 9 月, 東洋大学.
- ⑦ Jundo NAGASHIMA, “Super-aged Society and Roles of Buddhism in Japan”, Chulalongkorn Asian Heritage Forum, 2018 年 8 月, Bangkok.
- ⑧ Seishi KARASHIMA, “Narrative Verses and Expository Prose: Commonalities Between the Mahavastu and the Early Mahayana Scriptures”, The 17th World Sanskrit Conference, 2018 年 7 月, University of British Columbia, Vancouver.
- ⑨ Jundo NAGASHIMA, “Cultural Identity and Buddhism in Japan”, The 15th United Nations Day of Vesak Conference, 2018 年 5 月, Mahachulalongkornrajavidyalaya University, Ayutthaya.
- ⑩ 辛嶋静志, 「大衆部と大乘」, 日本印度学仏教学会第 68 回学術大会, 2017 年 9 月, 花園大学.
- ⑪ 平林二郎, 「Mahavastu に見られる読誦経典」, 日本印度学仏教学会第 68 回学術大会, 2017 年 9 月, 花園大学.
- ⑫ 辛嶋静志, 「《中阿含經》の原語」, 第十届漢文佛典語言学国際学術研討会, 2016 年 10 月, 浙江大学, 浙江省杭州市 (中国)

[図書] (計 5 件)

- ① Seishi KARASHIMA, Tatsushi TAMAI, *Mahayana Texts: Prajnaparamita Texts (2)* (Gilgit Manuscripts in the National Archives of India: Facsimile Edition, vol. II.2), The National Archives of India, New Delhi and The International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University, Tokyo 2019, 78.
- ② Seishi KARASHIMA, “The Underlying Language of the Chinese Translation of the Madhyama-agama”, in: Dhammadinna (ed.), *Research on the Madhyama-agama*, Dharma Drum Publishing Co. Taipei 2017, 393(197-207).
- ③ 辛嶋静志, 「トルクメニスタン・メルヴ出土説話集」, 宮治昭編『アジア仏教美術論集 中央アジア I (ガンダーラ～東西トルキスタン)』, 中央公論美術出版, 2017, 592(167-196).
- ④ 辛嶋静志, 『佛典語言及傳承』, 中西書局, 上海, 2017, 431.
- ⑤ Adelheid METTE, Noriyuki KUDO, Ruriko SAKUMA, Chanwit TUDKEAO, Jiro HIRABAYASHI, *Further Mahayanastutras*, The National Archives of India, New Delhi and International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University, Tokyo 2017, 195(xxxv-xl, 127-147).

[その他]

ホームページ等

国際仏教学高等研究所 出版物 : <http://iriab.soka.ac.jp/publication/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名 : 辛嶋 静志

ローマ字氏名 : KARASHIMA Seishi

所属研究機関名 : 創価大学

部局名 : 国際仏教学高等研究所

職名 : 教授

研究者番号 (8 桁) : 80221894

研究分担者氏名 : 長島 潤道

ローマ字氏名 : NAGASHIMA Jundo

所属研究機関名 : 大正大学

部局名 : 仏教学部

職名：特任准教授

研究者番号（8桁）：40646220

(2)研究協力者

研究協力者氏名：名和 隆乾

ローマ字氏名：NAWA Ryuken

大阪大学・文学部・特任講師

研究者番号（8桁）：20782741

研究協力者氏名：玉井 達士

ローマ字氏名：TAMAI Tatsushi

創価大学・国際仏教学高等研究所・客員研究員

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。